

シリーズ「グローバル・ジャスティス」 第25回

治安の悪化は、移民のせい？

～政治・メディア・社会学によって、いかに問題が作りだされたのか～

Eric FASSIN

パリ高等師範学校（エコール・ノルマル）教授

移民を治安悪化の原因とみなすような言説は、フランスでは長らく極右の論理として退けられてきたが、2005年に起きた都市暴動を契機に、急速に世論に浸透するようになった。こうした変化の背景には何があるのだろうか。この講演では、近年のナショナル・アイデンティティをめぐる議論を踏まえた上で、治安問題を移民に結び付ける言説が、政治・メディア・社会学の三者によって、いかに作りだされたかを検討する。

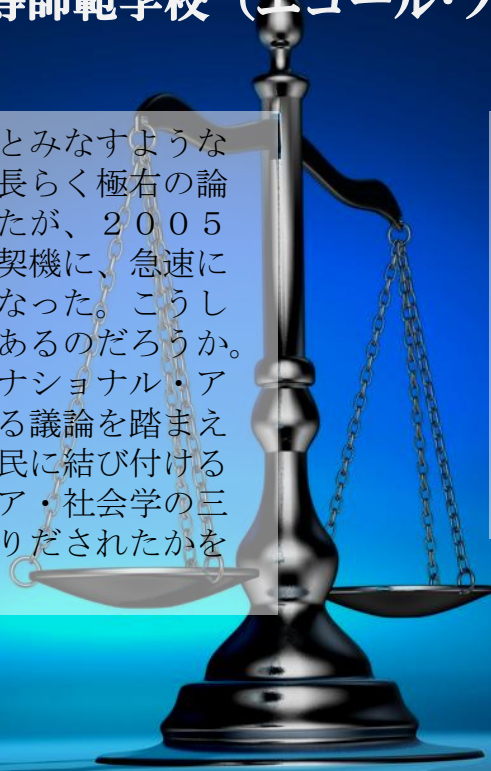
著書・編著

Démocratie précaire : Chroniques de la déraison d'Etat, La Découverte, 2012,

Homme, femme, quelle différence ?, Salvator, 2011,

Le Sexe politique : Genre et sexualité au miroir transatlantique, Édition EHESS, 2009,

De la question sociale à la question raciale ? : Représenter la société française, La Découverte, 2006 など



同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科では、連続セミナー「グローバル・ジャスティス」を開催いたします。このセミナーは、現代世界が直面するさまざまな課題における「ジャスティス」の問題を、講師が自らの視点で語っていくものです。したがって、どのような視角で、何を問題としてジャスティスを論じるかは講師にゆだね、主催者は一切の方向性をあらかじめ規定いたしません。ジャスティス(正義)という言葉のもつ多義性や問題性もふくめて、多様な議論の場として提供していくものです。

日時：2月24日(金)

17:00-19:00

会場：博遠館 202 番教室

共催：南山大学ヨーロッパ研究センター

来聴歓迎・予約不要
フランス語講演(通訳あり)

同志社大学
グローバル・スタディーズ研究科

tel. 075-251-3930

e-mail. ji-gs@mail.doshisha.ac.jp